資料３

令和２年度「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の事業評価について

事業の概要

震災の影響で学習環境が十分でない地域の子どもを中心に、地域と学校の連携・協働による学習支援等を実施することにより、被災地における子どもの学習環境の整備や仮設住宅とその周辺地域を結ぶコミュニティの復興促進を図る事業。

【こども部での対象事業】

・郡山市震災後子どものケアプロジェクト

子どもの明るく健やかな成長を促す環境整備を図るため、子どもや保護者等に対しての心のケア相談会、遊びと運動の実技に関する講演会や研修会等を開催する。

・地域子ども教室

地域の参画を得ながら、子どもたちに勉強・スポーツ・文化活動等の場を提供し、放課後の児童の安全で健やかな居場所づくりに取り組む。

【交付金の交付に必要な手続き】

「評価・検証委員会」を設置し、被災地における課題解決に向けての明確な目標設定や効果測定、事業の評価・検証を実施する。

↓

上記事業は、「郡山市ニコニコ子ども・子育てプラン」実施計画にも該当していることから、**子ども・子育て会議において評価・検証をする**。

各事業の目標等

【郡山市震災後子どものケアプロジェクト】

(1)目標

・子ども及び保護者が抱えている震災等に起因する心の不安を解消するとともに、事業をとおしてつながりを増やし、地域コミュニティの形成につなげる。

・未就学児童の運動等の状況を把握し、運動あそびをさせることにより、後の体力・運動能力を全国平均程度まで上昇させる。

(2)活動内容

・心のケアに関する相談会や、絵本の読み聞かせの実施

・運動実技講演会及び研修会の実施

・運動と生活習慣に関するアンケートの実施

(3)効果測定方策

・運動と生活習慣に関するアンケートの回答集計

・各種活動の参加者数の集計や実務者からの意見聴取

【地域子ども教室】

(1)目標

子ども教室における地域住民との交流や、各種体験事業の実施により、子どもたちが、地域住民との関わりを持ち、地域行事へ積極的に参加することで健全育成を図る。

また、子どもたちへの学習支援や読書活動を通して、自主学習や読書の習慣を身につけさせる。

・地域行事に参加した児童の割合　80%以上

・学習・読書の習慣が身に付いた児童の割合　80%以上

(2)活動内容

・公民館等が開催する行事への地域子ども教室入会児童の積極的な参加

・児童の学年に応じた適切な学習支援や読書時間の設定及び継続的な実施

(3)効果測定方策

・入会児童及び保護者に対するアンケート調査の実施
（内容：地域行事への参加状況、学習・読書時間等）

令和２年度郡山市震災後子どものケアプロジェクト事業評価・検証方法について

１．事業実績を基に業務受託者が自己評価
（令和３年３月上旬：完了）

↓

２．受託者の自己評価を基に業務委託者（市）が評価
（令和３年３月中旬：完了）

↓

３．受託者・委託者の評価を基に、子ども・子育て会議において客観的な評価
（令和３年３月下旬）

郡山市震災後子どものケアプロジェクトに係る受託業務評価書

（令和２年度事業分）

令和3年3月 17 日

【受託法人名】

NPO法人ハートフルハート未来を育む会

【受託業務名】

臨床心理士による心のケア相談会実施業務

【事業概要】

事業内容	① 子育てに関する心のケア相談会 年 8 回、当該月の第1月曜日に郡山市元気な遊びのひろば（ペップキッズこおりやま）において、そこを利用する保護者等からの震災等に起因するものも含めた子育てに関する相談を受ける。 ② 親子あそびと親ミーティング 年7回、郡山市が指定する場所、または、Web 会議サービスを利用したオンライン開催にて保育士との親子あそびでストレスを解消しつつ、臨床心理士と親がミーティングを行い、震災等に起因するものも含めた心の不安等についての相談を受ける。 ③ 保育士からの子どもに関する相談会 年6ヶ所延べ 12 回、公立保育所において、保育士から、震災に起因するものも含めた心の悩みや気になる児童の保育方法等についての相談を受ける。
事業費	1,815,000 円（R2 年度）
意図	臨床心理士が子どもの発達や問題行動、保育方法など、子育てに関する相談を受けることにより、震災に起因するものも含めた保護者等の心の不安を取り除くとともに、保護者や保育士が、子どもの心と体のすこやかな発達をより適切に促す。
対象	① 郡山市元気な遊びのひろば（ペップキッズこおりやま）を利用する保護者 ② 就学前の子ども及びその保護者 ③ 公立保育所の保育士

<table>
<tr><td>事業実施
結　　果</td><td>
① 相談件数
<table>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td></td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>2</td><td>5</td><td></td></tr>
<tr><td>10 月</td><td>11 月</td><td>12 月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>6</td><td>3</td><td>4</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td><td>30</td></tr>
</table>
② 参加人数 ()内は個別相談件数
<table>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td></td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>8(0)</td><td>4(0)</td><td>10(1)</td><td>8(1)</td><td></td></tr>
<tr><td>10 月</td><td>11 月</td><td>12 月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>2(0)</td><td>6(1)</td><td>－</td><td>10(0)</td><td>48(3)</td></tr>
</table>
③ 開催箇所数 ()内は相談を受けたクラス数
<table>
<tr><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td></td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>2(3)</td><td>2(2)</td><td>2(2)</td><td></td></tr>
<tr><td>10 月</td><td>11 月</td><td>12 月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>2(4)</td><td>2(2)</td><td>2(4)</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>12(17)</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

【事業実施結果による自己評価】

① 子育てに関する心のケア相談会　　8 回開催

日常の遊び場で心理士が巡回相談をすることで、保護者がその時に困っている発達や子育てなどの悩みを気軽に相談できる機会として機能している。またそれと同時に、心理士が場内の親子の様子を観察することで、潜在的なニーズのある親子に声をかけ相談を促すアウトリーチの機会としても機能している。相談内容は、発達や子育てについてのごく早期の相談が多く、問題が深く進展する前の早期介入・早期予防として機能している。相談者は、母親だけではなく、父親や祖父母からの相談もあり、ペップキッズのような多様な家族成員が利用する中規模の遊び場で巡回相談を行うことで、より多面的なニーズに対応することができていると考えられる。また特に今年度はコロナ禍の子育てに関連した相談もされており、その時その場で起きている親子の切実なニーズに適時に対応できる相談会になっている。

2月現在これまで開催した7回において、毎回必ず相談が発生しており、地域における子育て支援の一つとして定着し機能していると考えられる。

② 親子あそびと親ミーティング　　7 回開催

新型コロナウイルスの感染予防対策のため 6 月～1 月の計 6 回は web 会議サービスを用いたオンラインでの開催となった（3月は会場での開催を予定）。親子あそびでは、保育士の専門性を生かし、親子の良好な関係の構築を促進し発達を促す遊びを、参加者それぞれの反応を見ながら提供することができた。親ミーティングでは、心理職の専門的な支援により、子育ての中で気になることを参加者同士で語り合い、お互いの育児を認め合い、アドバイスや情報交換をする場として構成することができた。いずれも直接は会えない環境での画面越しの支援となったが、その環境の中でも子どもたちは楽しく遊び親とスキンシップを取ることができ、親たちはコロナ禍における子育ての大変さを他の参加者と共有し合い、専門家のアドバイスを聞く機会とすることができた。

オンラインというこれまでとは違う形での開催であったが、毎回必ず参加者の申し込みがあり、このような親子の良好な関係の構築と親同士のコミュニティを構築する支援は他の地区から転居する市民が多い郡山市では特に必要とされている支援であると考えられる。したがって来年度も今年度と同様の頻度で続けることが必要であると考える。

またこの支援は震災後の支援を名目にしたものではあるが、このコロナ状況下においては、震災時同様、親子の孤立化が生じやすく、このような機会が定期的にあることは、同時にコロナ禍の支援としても機能をしていると考えられる。（実際に親ミーティングでは、コロナ禍において親子が孤立してしまう状況に親がイライラし子どもにうまく対応できないことが語られている。このような話を親ミーティングで母親同士が話し合えることはそれ自体が親の孤立感を和らげ、育児により良く対応できるようになる効果がある。来年度もこのコロナ禍の状況はしばらく続く見通しであると考えられるため、コロナ禍の親子の孤立に対しても効果的であるこの支援は、コロナ禍の親子の支援としても来年度も同じ頻度で続けるべきであると考える）

③ 保育士からの子どもに関する相談会　12回開催

今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行によって緊急事態宣言下でスタートしたため、開始が 7 月からに遅れた。子どもたちに感染させない対策を十分工夫した。県外からの臨床心理士は派遣せず、県内の臨床心理士で 12 回の開催すべてを実施した。派遣された心理士は毎回検温して発熱がないことを確認、マスク着用、手洗い消毒を行って臨んだ。

コロナ禍により養育環境は影響を受けた。保育士もマスクを着用し、子どもたちにとって保育士の表情が読みとり難いことや、口元が見えないので乳幼児は誰が声を出しているのかわかりづらく言葉の発達や、保育士の指示が通りにくいなど影響が見られた。心配な子どもたちはさらに影響を受けやすく、保育士たちは懸命に対応していた。そうした保育現場を巡り労いつつアドバイスしサポートした。

6 ヶ所を前半と後半それぞれ訪問し（延べ 12 回）、一回目で問題を見立てて対処方法をアドバイスして、2 回目でその問題が解消に向かったかを検討しつつ、新たな問題にさらに助言を行った。概ね問題の解消に向かっていた。

【今後の課題等】

① 子育てに関する心のケア相談会

新型コロナウイルス感染予防に注意しながらではあるが、普段の遊び場の中であるからこそ気軽に利用できるよう、また親子の潜在的なニーズが汲み取れるよう、ペップキッズのスタッフと連携をしながら、引き続き声かけを続けていきたい。

② 親子あそびと親ミーティング

オンラインによる支援においても毎回ニーズがあることは評価に書いた通りであるが、その一方で、オンラインではなく会場開催に参加をしたいという参加者の声も多い。会場開催に向けて感染予防対策は既に準備しているが、会場の広さや換気の方法など会場面の課題があ

り会場開催が2月現在ではまだ実施できていないため、特に会場面の整備と参加人数の調整（分散開催）などを検討したい。またオンライン参加に敷居の高さを感じ参加できずにいる参加者も少なくないようなので、その理由を調査し何らかの対応が出来ると、会場開催が難しい状況でも支援を必要としている親子に支援が届けられると考える。

③ 保育士からの子どもに関する相談会

震災後 10 年を迎えるが、これから子供を産み育てる世代が思春期に被災した世代となって家庭環境はまだ震災の影響が残り、児童精神科は相変わらず受診待ちが数か月以上の状態である。そこへ来て、コロナウイルス感染のパンデミックが家庭や保育現場を覆い、保育士の仕事は過酷さを増している。保育の現場を実際に観察し、問題の子どもの家庭背景をも考慮しつつ成長・発達の援助をアドバイスすることの重要性は増している。感染予防のため、県内の心理士で支援を実施していくことが求められるが、人材の育成と心理士の専門性を担保していくことが課題となる。

＜市記入欄＞

【業務委託者としての評価】

本事業は、子ども、保護者及び支援者の総合的な心のケアを目的としている。

子育てに関する心のケア相談会は、ペップキッズこおりやまにおいて継続的に実施しているため、子どもを遊びに連れて行くと同時に気軽に相談できる環境として、来所者に浸透してきたと認められる。

親子遊びと親ミーティングについては、新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン会議システムを利用しての開催となったが、子育て中の保護者にとって、子育ての悩みの相談や保護者同士の情報共有などができる有意義な場となっている。

保育士からの子どもに関する相談会については、発達障がいやその疑いがある児童が多くいるクラスにおいて、保育士の悩みを聞き、児童を観察・把握した上で、児童へのかかわり方やクラス運営、保護者へのアプローチ等について、それぞれの保育士や保育所に合わせたアドバイスを受けることができた。その結果、保育士の悩みの解消や保育の質の向上、児童の健やかな成長・発達につながっている。

上記のとおり、震災後 10 年を迎えるが、いまだにその影響は残っており、家庭における子どもが学び育つ環境が好転できるよう、心に不安を抱える保護者等に対しきめ細やかなケアをすることができているとともに、親同士の交流により地域コミュニティの復興にも寄与していることから、本事業は良好に実施されたと認められる。

郡山市震災後子どものケアプロジェクトに係る受託業務評価書

（令和２年度事業分）

令和3年3月 17 日

【受託法人名】

認定NPO法人郡山ペップ子育てネットワーク

【受託業務名】

運動実技講演会及び研修会実施業務

【事業概要】

<table>
<tr><td>事業内容</td><td>子どもたちが自ら楽しんで体を動かし遊ぶことができるよう導くことができる指導者（プレイリーダー）を養成し、日常的に利用する施設等において実践できるよう、以下の事業を行う。
①講演会
運動あそびの指導者として必要な理論的背景を学ぶため、30 分程度の講義を受講する。
②研修会
子どもたちの運動量の確保と運動あそびの技術向上のため、幼児期運動指針と郡山市版幼児期運動実践プログラムに基づく実技を学ぶ。
③親子の運動あそび
保護者が子どもとともに自宅で運動遊びを実践できるよう、保育施設等で親子に直接運動実技を指導する。</td></tr>
<tr><td>事業費</td><td>1,038,937 円（令和2年度）</td></tr>
<tr><td>意図</td><td>震災後、子どもたちの運動量が減少し、体重の増加や体力の低下が見られたことから、子どもの運動に関するエキスパートを養成し、子どもたちにフィードバックすることで、運動機会の増加や、十分な運動量を確保できるようにする。</td></tr>
<tr><td>対象</td><td>全市民</td></tr>
<tr><td>事業実施結　　果</td><td>講演会及び研修会参加人数：100 人
<table>
<tr><th>月</th><th>場所</th><th>参加人数</th></tr>
<tr><td>4</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>5</td><td>延期</td><td>―</td></tr>
<tr><td>7</td><td>ニコニコこども館</td><td>26</td></tr>
<tr><td>7</td><td>ニコニコこども館</td><td>22</td></tr>
<tr><td>8</td><td>ペップキッズこおりやま</td><td>31</td></tr>
<tr><td>9</td><td>中止</td><td>―</td></tr>
</table>
<table>
<tr><th>月</th><th>場所</th><th>参加人数</th></tr>
<tr><td>10</td><td>ニコニコこども館</td><td>11</td></tr>
<tr><td>11</td><td>ニコニコこども館</td><td>10</td></tr>
<tr><td>12</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>1</td><td>中止</td><td>―</td></tr>
<tr><td>2</td><td>中止</td><td>―</td></tr>
<tr><td>3</td><td>中止</td><td>―</td></tr>
</table>
親子の運動あそび
新型コロナウイルス感染症の影響により中止</td></tr>
</table>

【事業実施結果による自己評価】

本事業は、子どもの保育・教育現場に従事する関係者への具体的支援であり、実施内容は昨年度の評価同様に、下記のような成果が上がってきていることから、良好に実施された。しかし、コロナ禍での緊急事態宣言の発出、感染拡大地域からの移動自粛により予定していた事業が制限された。

①講演会及び②研修会

運動遊びの指導者あるいは、保育・教育現場に従事する関係者に参加していただき、必要な理論が周知され、各現場で運動の機会を確保する、体力テストを確実に実施する、保護者の参加を促す、さらに家庭での取り組みの促しなどが行われるようになった。

③親子の運動遊び

中止

今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため開催の制限を受け、予定の半分程度の事業実施となりました。実技指導講師は現場からの声に基づいた実践形式の提案を行った。コロナ禍における遊び方ではソーシャルディスタンスを保ちながら遊べる「2mを遊ぼう」や環境を整えて遊びを届けるのではなく、こどもと共に遊びを作るプレイリード「みんなだったらどう遊ぶ？」などの考えを促し、見通しがたったら離れていく。特定のこどもが見出した遊びを共有していくなど実践を交えて指導を行うことができた。本事業は広域圏からの参加者も多く見られて、今後とも継続の必要性を感じた。

【今後の課題等】

・東京、山梨から講師の招聘が困難な背景があるため、継続的な開催のためにオンラインでの実施も検討したい。
・保育施設から園へのプレイリーダー派遣を希望する声をいただいている。ニーズへの対応を検討する必要がある。
・本事業は非常に有用な事業と思われるので、市外(特に本市と広域連携を結ぶ市町村)からの参加者を募ることも重要であると考える。
・コロナ禍においてこどもの遊びに対して制限されてしまう状況の中、こどもの居場所づくり(遊びの保障)をしていかなくてはならない。
・家庭時間が増えたことで親子運動遊びだけでなく、保護者の参加を促し、積極的に保護者が家庭で運動遊びを親子で行えるように促す。

＜市記入欄＞

【業務委託者としての評価】

受講者が自身の所属する施設において、本事業で学んだ遊び方等をフィードバックし、子どもたちの運動量を増進することで、子どもたちが運動あそびを通して体の動かし方を学ぶ機会を確保できていると認められる。 また、新型コロナウイルス感染症の影響により、保育・教育現場に運動等の専門家が訪問し、親子遊びを直接指導することは中止となったが、受講者自身が本事業で学んだことを自身の所属する施設において実践することで、親子間のふれあいが生まれているとともに、その施設に通所する親同士のつながりも増え、地域コミュニティの形成にも役立っている。 なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加人数の制限はあったものの、例年同等の参加者がおり、本事業は良好に実施されたと認められる

郡山市震災後子どものケアプロジェクトに係る受託業務評価書

（令和2年度事業分）

令和3年3月 17 日

【受託法人名】

認定NPO法人郡山ペップ子育てネットワーク

【受託業務名】

絵本の読み聞かせ実施業務

【事業概要】

<table>
<tr><td>事業内容</td><td>各地域子育て支援センター、ペップキッズこおりやまなど、郡山市が指定する子育て関連施設において、親子を対象に年間 94 回、1回 30 分程度の絵本の読み聞かせやわらべ歌、指人形劇等を実施する。
また、読み聞かせ者、及び子育て関連施設との連絡調整を行う。</td></tr>
<tr><td>事業費</td><td>524,700 円（令和2年度）</td></tr>
<tr><td>意図</td><td>幼児期に絵本を読み聞かせることにより、言葉や情操の発達を促す。
また、本事業をきっかけに、家庭における読み聞かせを普及し、親子の触れ合いがより深められるようにする。</td></tr>
<tr><td>対象</td><td>市内各子育て関連施設に来所した親子</td></tr>
<tr><td>事業実施結　　果</td><td>読み聞かせ実施回数：年間 94 回
参加人数：延べ 1,218 人（令和3年3月 15 日時点）
<table>
<tr><th>月</th><th>回数</th><th>参加人数</th></tr>
<tr><td>4</td><td>3</td><td>32</td></tr>
<tr><td>5</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>6</td><td>8</td><td>109</td></tr>
<tr><td>7</td><td>10</td><td>145</td></tr>
<tr><td>8</td><td>9</td><td>118</td></tr>
<tr><td>9</td><td>11</td><td>177</td></tr>
</table>
<table>
<tr><th>月</th><th>回数</th><th>参加人数</th></tr>
<tr><td>10</td><td>9</td><td>121</td></tr>
<tr><td>11</td><td>9</td><td>110</td></tr>
<tr><td>12</td><td>8</td><td>103</td></tr>
<tr><td>1</td><td>8</td><td>86</td></tr>
<tr><td>2</td><td>10</td><td>155</td></tr>
<tr><td>3</td><td>9</td><td>62</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

【事業実施結果による自己評価】

本事業は、平成26年度から7年間継続的に実施しており、毎回多くの参加をいただいている。特に今年度は読み聞かせ団体に、より専門知識を持っている絵本専門士の資格を有する方にも参加頂き、好評を得た。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の発令に伴い、気軽な外出が出来なく家にこもりがちになり、東日本大震災直後と似たような環境でストレスを感じている親子が多く見受けられ、さらにマスク着用で親の表情が見えない状況下で親子のコミュニケーションを図るのには困難な状況が続くことへの不安な声も聞こえてきた。

読み聞かせは親子のコミュニケーションだけではなく、語彙力、読解力さらには想像力や集中力などの大切な要素がたくさん含まれているので言葉や情操の発達への導きやさりげないアドバイスなどを提供している。

【今後の課題等】

本事業は平成 26 年から 7 年間継続的に実施しており、各子育て支援施設の来所者に定着した事業となっている。

受託事業としては今年度で終了となりますが、来年度以降も、絵本や親子のコミュニケーションのきっかけ作りの提供をペップキッズ館内や各子育て支援施設等にて継続を図っていきたい。

また、読み聞かせボランティアのスキルアップのための研修、講習会も継続して行う。ネット社会で検索すればなんでもわかってしまう中で、小さい頃から絵本や本に慣れ親しむことで本を読み、調べることにより物事を知っていく楽しさを知る子の成長を手助けしたい。

＜市記入欄＞

【業務委託者としての評価】

読み聞かせ者の複数の施設に派遣されているが、それぞれの特色を活かした読み聞かせを実施することにより、事業に幅を持たせ、参加者に様々な読み聞かせを楽しむ機会を提供する等、施設への読み聞かせ者の派遣方法に工夫を凝らして開催しており、参加した保護者からは、「読み聞かせを通して、子どもとの係わり方を学ぶことができ、家庭での育児の楽しさが増した。」といった意見が寄せられており、家庭における情操や言語の発達手法として、読み聞かせが活用されている。

また、不特定多数の親子が同じ事業に参加することで、保護者間のつながりが生まれ、子育てに関する地域コミュニティの復興促進に役立っている。

以上のことから、本事業は良好に実施されたと認められる。

郡山市震災後子どものケアプロジェクトに係る受託業務評価書

（令和２年度事業分）

令和3年3月 17 日

【受託法人名】

認定NPO法人郡山ペップ子育てネットワーク

【受託業務名】

「郡山市子どもの心と体の育ち見守り事業」運動や食事についてのアンケート調査実施業務

【事業概要】

事業内容	子どもたちの運動の状況、生活環境の状況、食事の状況についてアンケート調査により把握し、その内容を評価・分析する。 ・アンケート調査票の作成、印刷、配布、回収、質問への対応。 ・回収されたアンケート調査票のデータ入力、集計、分析及び評価。 ・分析結果及び評価結果を掲載した冊子作成及び各施設への配布。 ・個人アンケート結果をCDに移し、改善のための基礎資料として各施設へ配布。 ・アンケートに御協力いただいた施設等に対し調査結果報告会の開催。
事業費	9,955,000 円（令和２年度）
意図	子どもたちの普段の運動状況、生活状況、食習慣を把握し、分析することで、運動能力低下及び体重増加の解消など、子どもたちの健やかな育ちを見守るための事業展開の検討に必要となる基礎資料とする。
対象	郡山市内の保育所、幼稚園、小学校、中学校に在籍する4歳～15歳の子ども （未就学児童については保護者が、小中学生は本人が回答。）
事業実施結　　果	①　調査時期 令和2年　5月～　6月 ②　データ集計 令和2年　7月～　10月 ③　分析・評価 令和2年　11月～　令和3年　2月 ④調査・分析結果 別紙のとおり 【アンケート調査実績】 ・対象施設数 193施設（保育所:80施設　幼稚園:31施設　小学校:54施設　中学校:28施設） ・対象者数 30,460人（保育所:2,175人　幼稚園:3,396人　小学校:16,268人　中学校:8,621人） ・回答者数 25,499人（保育所:1,406人　幼稚園:2,351人　小学校:14,250人　中学校:7,492人） ・有効回答者数 25,499人（保育所:1,406人　幼稚園:2,351人　小学校:14,250人　中学校:7,492人） ・有効回答率 83.7%（保育所:64.6%　幼稚園:69.2%　小学校:87.6%　中学校:86.9%）

【事業実施結果による自己評価】

平成 25 年度から 8 回目となる今年度も 83.7%という高い回収率を維持した。コロナ禍で教育保育現場では大変な苦労があり、今回の回収率はかなり低下することを予想していたが、継続的な研究に対して協力を頂けたことは重要な意味を持つ。またこの回収率によって、これまでのそしてこれからのデータが途切れることなく意味のあるデータとして比較検討に使用できる。

報告書においては、今年度は通常の単年度の集計に加え、『総括』として 8 年間の調査によって分かったこと、別途行っている体力・運動能力テストとのクロス震災から長時間にわたる子どもの様子について、震災後からの長期間を連続的に観察し、更に新型コロナウイルス感染症の蔓延による制限を受けた前後の比較ができるという、世界的にも極めて珍しい重大な社会的影響を計る調査結果は、非常に貴重であり、また後に様々な別の調査が行われた際の比較検討される基礎となるデータとなり得る。

震災による影響がまだまだ改善されていないことが明らかになり、たとえ時間が経過しても一度変わってしまった子どもたちの生活環境による変化は長引くことが分かった。教育保育現場では、大まかな状況は個々に把握されていると思うが、郡山市全体との比較によってその地域や学校や園などが持つ特色が露わになるであろう。また、次年度の教育保育計画にも有用となるよう、報告書にまとめた。

本調査の結果によって、各現場において、幼児、児童、生徒に対して生活習慣を改善するアドバイスを行える貴重なデータとなっていることから、本事業は良好に実施できたと考える。

【今後の課題等】

これまでも徐々に回収率が低下傾向であったが、今後も高率の回収率を維持するためには、今年度の『総括』のような総合的な研究成果をより多く現場に返却できるように工夫する必要がある。

震災からの時間が経過し、新型コロナウイルス感染症の蔓延という別の状況があり、アンケートの内容が一部現状にそぐわない部分もあるが、with放射線に次ぐwithコロナという子どもにとって大きな制限がかかり生活様式を変えなくてはいけないという点においては共通であり、10年間の継続評価を行うためには調査項目の変更は望ましく無いため、あえて項目は変更しない方針である。本事業がさらに有効に活用できるようにするため、施設側からの要望や活用状況などを聞き取る機会を設けることを検討する必要がある。当初予定された期間以降の、コロナによる影響を継続的に調査する価値があるのか否かを、専門家や現場の関係者と検討する必要がある。

＜市記入欄＞

【業務委託者としての評価】

本事業は、震災後の子どもたちの普段の運動状況、生活状況、食習慣を10年にわたり、中長期的に把握・分析することで、子どもたちの健やかな育ちを見守るための事業展開の検討に必要となる基礎資料とすることを目的としており、受託者の自己評価にもあるとおり、8回目となる本年度のアンケート回収率は各施設の協力により83.7%と高く、市内の保育・教育施設に在籍している子どもたちの運動と食事についての実態をほぼ把握することができている。

また、郡山市の子どもたちのアンケートに御協力いただいた施設の関係者向けに調査結果報告会を開催し、分析結果及びそれに関連する事項について説明し、併せて各施設にデータをフィードバックすることで、各施設において震災に起因すると思われる子どもの運動能力の低下や生活習慣等の改善に関する取組を推進することができ、子どもがより学び、育つことができる環境を好転するための有意義な基礎資料となっており、かつ、学校等でその結果を活用していくことで、地域コミュニティの復興にも寄与している。

なお、昨年度より、これまでのアンケート調査結果の経年変化に着目しており、項目別の経年変化の分析から子どもたちの現状に影響を及ぼしている要因の分析を始めており、本年度からは、震災後の子どもたちの肥満度と生活習慣の関係や食生活など、項目別の経年変化の分析から子どもたちの現状に影響を及ぼしている要因の分析を行い、調査の総括を始めたところである。

このようなことから、本事業は良好に実施されたと認められる。

放課後地域子ども教室事業

放課後等における子どもたちの安全、安心な居場所を設けるとともに、地域住民の参画を得て、学習や体験活動、交流活動に取組むため、放課後地域子ども教室を開設している。各子ども教室では、地域の行事への参加や、独自の企画を積極的に実施しており、子どもたちの新たな体験活動の場を提供している。

地域子ども教室一覧

R3.3月現在

子ども教室名	開設年月	使用施設	登録児童数(人)	安全管理員数(人)	開所日、開所時間
湖南	H19.4月	余裕教室	30	18	・月曜日から金曜日 ※閉所日：土日、祝日、お盆期間 12月24日～１月７日 ・学校開校日：放課後～18時30分 ・長期休業日：７時30分～18時30分 ※上記は標準的な開所時間
熱海小	H20.4月	余裕教室	19	17	
安子島小	H28.4月	特別教室棟倉庫	35	17	
三和小	H28.8月	南校舎集会室	41	24	
御代田小	H29.1月	余裕教室	55	23	
高倉小	H29.4月	余裕教室	19	16	
白岩小	H30.1月	余裕教室	30	13	
御舘小	H31.4月	余裕教室	41	32	
宮城小	H31.4月	余裕教室	32	23	
河内小	H31.4月	河内ふれあいセンター内	21	19	
合　計			323	202	

取組内容

〇学習・読書活動

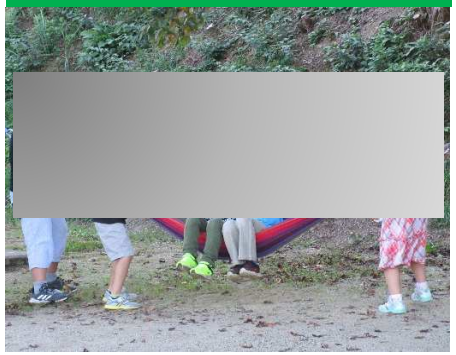
各子ども教室において、毎日１時間程度、自主学習の時間を設け、安全管理員の見守りの下、学習や読書に取り組むとともに、地域住民やボランティアによる絵本の読み聞かせなどを行った。

〇体験・交流活動

子ども教室名	活　動　内　容
湖南小	・冒険広場　・ボランティアのお手伝い
熱海小	・紙芝居、手遊び
安子島小	・座禅体験とお話し会　・流しそうめん　・親子星空観察会　・段ボール工作
三和小	・公民館主催事業（食育講座、ボッチャ体験）　・地域の合唱隊と交流会 ・一人暮らしの高齢者へのメッセージカードの作成
御代田小	・クラフト手芸
高倉小	・農業センター見学
白岩小	・人権教室
御舘小	・海老根和紙秋蛍灯ろう作品作り　・グラウンドゴルフ交流大会　・工作（ペン立て、水ヨーヨー）
宮城小	・木工教室
河内小	・料理教室　・紙飛行機の作り方講座

湖南小子ども教室
（読み聞かせ）

湖南小子ども教室
（冒険広場）



三和小子ども教室
（ボッチャ体験）

地域子ども教室事業評価について

1　アンケート調査結果

R2.2月調査

子ども教室名	登録児童数（人）	回答者数（人）	地域行事への参加について				学習・読書習慣について							
			地域行事への参加の有無（人）		今後の地域行事への参加希望（人）		家庭での学習・読書習慣の定着の有無（人）		子ども教室・家庭での学習時間（１日平均、分）			子ども教室・家庭での読書時間（１日平均、分）		
			有	無	有	無	有	無	平日		土日	平日		土日
									教室	家庭		教室	家庭	
湖　南	30	23（ 77% ）	8（ 35%）	15（ 65%）	23（ 100%）	0（ 0%）	20（ 87%）	3（ 13%）	24	24	40	19	17	21
熱　海	19	14（ 74% ）	1（ 7%）	13（ 93%）	14（ 100%）	0（ 0%）	12（ 86%）	2（ 14%）	29	25	34	21	24	29
安子島	35	28（ 80% ）	4（ 14%）	24（ 86%）	22（ 79%）	6（ 21%）	19（ 68%）	9（ 32%）	34	27	38	9	11	13
三　和	41	29（ 71% ）	8（ 28%）	21（ 72%）	29（ 100%）	0（ 0%）	23（ 79%）	6（ 21%）	26	33	37	14	19	22
御代田	55	39（ 71% ）	5（ 13%）	34（ 87%）	37（ 95%）	2（ 5%）	38（ 97%）	1（ 3%）	40	31	37	16	18	22
高　倉	19	15（ 79% ）	0（ 0%）	15（ 100%）	15（ 100%）	0（ 0%）	12（ 80%）	3（ 20%）	37	26	28	15	21	26
白　岩	30	21（ 70% ）	4（ 19%）	17（ 81%）	20（ 95%）	1（ 5%）	16（ 76%）	5（ 24%）	36	28	42	12	13	21
御　舘	41	30（ 73% ）	11（ 37%）	19（ 63%）	30（ 100%）	0（ 0%）	29（ 97%）	1（ 3%）	30	29	30	21	20	22
宮　城	32	22（ 69% ）	7（ 32%）	15（ 68%）	22（ 100%）	0（ 0%）	18（ 82%）	4（ 18%）	38	29	51	14	21	26
河　内	21	13（ 62% ）	3（ 23%）	10（ 77%）	13（ 100%）	0（ 0%）	11（ 85%）	2（ 15%）	35	20	35	21	22	25
合計	323	234（ 72% ）	51（ 22% ）	183（ 78% ）	225（ 96% ）	9（ 4% ）	198（ 85% ）	36（ 15% ）	33	27	37	16	18	23

2　目標設定

（１）地域行事に参加した児童の割合　８０％以上
（２）家庭での学習・読書の習慣が身に付いた児童の割合　８０％以上

3　効果測定

（１）２２％
（２）８５％

4　事業評価(案)

本事業は、放課後等における子どもたちの安全、安心な居場所を設けるとともに、地域住民の参画を得て、学習や体験活動、交流活動に取組むことを目的としており、各子ども教室において、地域行事への参加や、ボランティアによる学習支援など、独自の企画を積極的に実施した。

通常は各教室において、夏休みを中心に、地域住民や公民館との連携により、様々な体験活動や地域行事への参加を行い、地域コミュニティの形成に大きく寄与するところであるが、新型コロナウイルス感染症の影響により活動の大半が中止を余儀なくされたことから、目標を大きく下回る結果となった。

しかし、今後の地域行事への参加希望は９６％であることから、これまで子どもたちと地域住民のコミュニティ形成のために実施してきた行事等が、子どもたちの地域の関心を強め、強固なコミュニティ形成意識が醸成されたものと考える。

またコロナ禍の中でも、毎日、宿題や自主学習の時間を設け、安全管理員の見守りのもと、学習活動に取組み、また、地域住民やボランティアによる絵本や紙芝居の読み聞かせを実施した結果、子ども教室及び家庭における学習、読書時間については確保されており、目標値を上回る学習・読書習慣の定着に効果を果たしたものと考える。

以上のことから、本事業はおおむね良好に実施されたものと認められる。